

平成30年度 学校評価報告書

美馬市立美馬小学校長 藤本 政義 印

1 総括評価

評価分野	評価 平均値	評価結果の概要	次年度の改善策
(1) 学校経営及び学校運営に関する評価	3	<p>(1)学校教育目標の具現化に向けて、全教職員が一丸となり、組織力を生かした学校経営及び学校運営が概ねできた。また、教職員評価・育成システムを活用しながら、各教職員が具体的な目標の達成に向けて、日々努力しながら実践を積み重ねることにより、一定の成果を上げることができた。</p> <p>(2)具体的な重点施策について、総会や校長室便り等で保護者にも機会を捉えて周知、協力依頼をしながら計画や実践を進め、概ね目標が達成できた。</p> <p>(3)主要な教育活動については、計画立案の段階から全教職員で協議する時間を十分に確保できた。そして、全教職員が共通理解を図った上で、教育活動を進めることができ、目標が概ね達成できた。</p> <p>(4)校長室便り、学年便り、ホームページ等で学校や子どもたちの様子を伝えるなど、積極的に情報発信ができた。また、保護者の方々も学校行事やPTA活動等への参加が多く、学校教育に協力する意識を高くもち、連携した活動ができた。</p> <p>(5)児童が安全で快適に学習できる環境づくりが概ね達成できた。最新のICT機器の導入により、視覚的に分かりやすい教材や資料の提示、タブレットの活用等により、児童が主体的に学習に取り組める環境が整備され、その成果が少しずつ現れている。また、特別支援教育については、コーディネーターや巡回相談員を中心に関係諸機関との連携を密に図り、効果的な支援の方法を模索しながら実践し、少しずつではあるが、児童の成長や変容として現れている。</p>	(1)今年度の評価結果を精査し、課題を明確にすることにより、経営及び運営の立案にいかしていく。また、学校教育目標の具現化に向けて、教職員、保護者の学校評価に対する理解を深め、教職員の意欲向上や資質向上に繋がる学校評価システムの構築を図る。
(2) 教育目標及び教育計画に関する評価	3		(2)PDCAを有効に活用し、本年度より充実した内容や成果が上がるように教育目標及び教育計画を作成し、実践の成果が可視化できるように工夫する。
(3) 主要な教育活動に関する評価	3		(3)今年度の評価結果や意見等で早急に課題解決を要する内容については、優先的に対策を講じる。特に、学力向上やいじめ問題、危機管理等、今日的課題には、より計画的・組織的に取り組んでいく。
(4) 保護者及び地域との連携等に関する評価	3		(4)地域の力で子供たちを育てていくという発想で、教育活動を教育課程の中に明確に位置づけ、実践を進める。そういった取組の過程で、保護者や地域に信頼される、特色ある学校づくりを推進する。
(5) その他	3		(5)安心・安全な学校づくりのため、不審者対策や防災教育等について、保護者や地域、関係機関との連携をとりながら、取組を進める。ICTの活用についても、これまでと同様に子供たちに分かりやすい授業づくりに努める。また、特別支援教育についても保護者への正しい理解を深めるための啓発を積極的に行うとともに、個の教育的ニーズに応じた支援や合理的な配慮の具体的な取組を推進していく。

<評価基準>

4 (十分達成している)

2 (あまり達成されていない)

3 (概ね達成している)

1 (全く達成されていない)

2 分野別評価

(1) 学校経営及び学校運営に関する評価

評価項目	評価	評価結果の概要	次年度の改善策
①経営方針の明確化とその実践状況	3	①経営の重点施策の一つ「地域とともにある学校づくり」については、校区の広がりにより、移動や時間に課題があるが、概ね目標が達成できた。	①経営方針をより具体的に提示するとともに、機会あるごとに繰り返し説明、指導する。また、定期的にその実施状況について自己評価し、改善に生かす。 ②教職員が組織として課題や問題を共有し、協力して解決していこうとする士気（モラル）を高めようとする環境づくりやシステム化に努める。 ③授業公開や授業研究会が開催できやすいシステムを構築するとともに、積極的に外部講師を招聘し、資質向上を図る。また、校内研修の充実を図るために、サテライト研修等も効果的に活用する。 ④各種研究会での授業公開等を授業改善の絶好の機会とし、授業研究を中心とした校内研修をより一層充実させることにより、授業力・指導力の向上に努める。また、各自が自分の経験やスキルに応じた研修に積極的に取り組むとともに、OJTによる研修を活性化させ、個人のスキルアップを図る。
②校務分掌分担の適正化と組織的な活動・運営状況	4	②公正、公平を原則として校務分掌はほぼ適正に分担することができた。また、職員会議等では自分なりのアイデアを盛り込んで計画を提案し、学校運営への参画が概ねできたと評価している。	
③教職員研修体制の確立と実践状況	3	③研修主任や指導教諭を中心に作成した年間計画に基づいた実践とともに、OJTによる研修の活性化により、一定の成果を修めることができた。	
④教職員の資質向上に向けた取り組み状況	3	④教職員の資質向上には授業力向上が最重要だと考え、児童が主体となって話し合いを進める授業実践に努めることができた。しかし、思考力や表現力等を高める取組についてはさらに研修を深めていく必要がある。	

(2) 教育目標及び教育計画に関する評価

評価項目	評価	評価結果の概要	次年度の改善策
①学校教育目標の具現化と実践状況	3	①重点目標に具体的な数値目標を掲げ、その具現化・達成のために、全教職員の共通理解・共通実践し、概ね達成できた。 ②児童や地域の実態に応じて、教育課程が見直され、児童や地域の実態に応じて編成、改善され、実践できた、とほとんどの教職員が評価している。 ③学校行事の精選、工夫改善がなされ、各行事の目標が十分に達成できたと評価している。また、児童のや保護者のアンケート、感想等からも、行事の充実ぶりが評価された。	①重点目標について、本年度の成果や反省をもとに具体的な数値目標を設定し、指導、評価、改善できるシステムを構築し、評価と指導の一体化を図る。 ②新学習指導要領への円滑な移行が図れるよう、教育課程等を編成する。また、実施状況の点検・評価を計画的に実施し、改善にいかしていく。 ③学校行事の目標について全職員が共通理解する話し合いの場を大切にしたい。保護者、地域の願いに応えられるものにし、これまで以上に連携を図り、児童が達成感や成就感を感じ、さらに自らを高めようとする意欲の向上に努める。
②創意ある教育課程の編成と実施状況	3		
③学校行事の精選・充実と成果の状況	4		

(3) 主要な教育活動に関する評価

評価項目	評価	評価結果の概要	次年度の改善策
①分かる授業の実践とその成果の状況	3	①教材研究に努め、分かりやすい授業改善が概ねできたと評価しており、一定の成果は修められた。しかし、全国学力・学習状況調査や県ステップアップテストの結果では、国語・算数ともに基礎問題は県平均とほぼ同じ正答率となっているが、算数で活用力を試す問題は県平均よりやや低い正答率となっている。過去問や問題集等も活用しているが、期待する結果は修められなかった。日々の授業改善や家庭学習の習慣化が急務である。	①日々の生徒指導や個別指導等で教材研究や教材づくりの時間が確保しにくい状況にあるが、各担任の事務処理を可能な限り軽減することにより、授業や児童への指導に専念できる環境づくりに努める。
②生徒指導の取り組みとその成果の状況	4	②生徒指導では全教職員の共通理解を図るとともに、保護者との連携を密にした適切な指導ができたと評価している。特にいじめについては定期的に実態調査を実施し、気になる事案については、保護者と連携をとりながら、適切に指導を行うことができた。また、「みまっこ宣言」についても、様々な機会に復唱し、児童や教職員が5つの内容について理解し、自他を大切にできる児童の育成を概ね図ることができた。	②基本的な生活習慣の定着やいじめに関しては、これまでどおり定期的に調査を実施し、問題行動等発見の際は、全教職員体制で迅速かつ適切な対応に努める。次年度も「みまっこ宣言」をあらゆる機会に提示していき、心の教育の充実を図る。
③道徳教育及び人権教育の取り組みとその成果の状況	3	③子供たちに人権感覚が育つような取り組み、また、いじめや差別を許さない学校づくり、仲間づくりが概ねできたと評価している。	③道徳教育、人権教育については管理職をはじめ、道徳教育推進教師や人権教育主事が中心となって、年間計画の見直しや全校的な取組を推進する。
④健康・安全教育の取り組みとその成果の状況	3	④健康、安全教育については、自らの健康に関心をもち、生活習慣を改善していこうとする実践力を高める指導が概ねできたと評価している。ただ、休日にメディアゲームに多くの時間を費やしている児童も多く、家庭と連携し、個に応じた指導を要する。	④健康教育については、健康観察カードや生活アンケート調査の結果等を活用し、運動習慣の確立・体力向上に結びつく指導内容の充実を図る。また、安全・防災教育についても地域との連携を本年度以上に図り、推進する。
⑤学力向上への取り組みとその成果の状況	3	⑤すべての児童に基礎、基本の力が身に付くような全校的な取り組みができたと評価している。	⑤学力向上については、「基礎・基本」の徹底を図る全校的な取組を実践する。また、言語活動の充実を図るために、話し合い活動や書くことを重視した授業や特別活動、個に応じた指導方法等について研修を深める。「家庭学習の友」や「家庭学習の手引き」等を効果的に活用して、家庭学習の習慣化を図る。

(4) 保護者及び地域との連携等に関する評価

評価項目	評価	評価結果の概要	次年度の改善策
①保護者・地域社会への情報発信及び学校開放等の取り組み状況	4	①授業や学校行事等での児童の様子を、校長室便り、学年便りやホームページ等で丁寧にお知らせや案内するなど、保護者や地域に適切な情報の発信が十分にできていると評価している。 ②認定こども園・中学校との合同によるフォトライブ等を開催したが、保護者同士の交流やふれ合いを深める活動が十分にできなかったと評価している。参観日やPTAの会合等への参加率は高く、円滑な学校運営はできた。	①校長室便り、学年便りやホームページ等を活用し、積極的に情報を発信する。また、情報が一方通行にならないように、定期的に意見を収集し、双方向で情報交換をし、適切に対応できるシステムを構築する。 ②PTA活動を活性化させるための情報提供や体制づくりを行い、保護者間の交流を深めるとともに、家庭教育の重要性の啓発を図る。
②PTA活動の活性化に向けた取り組み状況	3	③認定こども園や中学校との交流を積極的に行い、保幼小中連携のさらなる推進の基盤作りができた。特に、小中合同の研修や授業研究会、行事等が実践でき、概ね成果を修めることができた。	③認定こども園との連携を充実させるとともに、保幼小の接続についても研修を深める。また、中学校との連携については、特に高学年での外国語科の先行実施、中学年での外国語活動の導入等により必要性が増しており、連携を充実させ、円滑な接続を図る。
③他校や異校種間との交流、連携強化への取り組み状況	4	④外部講師や地域の人達を招聘して、各教科や総合的な学習の時間に、充実した教育活動を実践することが概ねできた。	④学校評価委員会等を活用し、本年度以上に、地域の教育力を学習活動に取り入れる。また、各学年が系統的・計画的に学習できるように、教育課程や年間計画に明確に位置づけるとともに、地域人材等のデータベース化を図る。
④地域の人材や外部講師の活用状況	3		

(5) その他に関する評価

評価項目	評価	評価結果の概要	次年度の改善策
①教育環境の安全管理及び整備状況	4	①施設、設備の安全点検がきちんとされ、子供たちが安心して安全に活動できるような環境が、概ね整備されていると評価している。	①安心、安全な学校づくりのため、学校で取り組めること、地域とともに取り組めることを明確にし、安全管理や整備等を推進する。
②ICT等の教育機器の活用状況	4	②パソコンに親しませるとともに、ICT機器等を積極的に活用して、授業改善に努めている。電子黒板やタブレット、デジタル教科書等は毎日の授業で常時活用し、児童の主体的・対話的な学びの取組にいかされている。	②情報教育主任を中心に、タブレット端末等のICTの教育機器や教育ソフト等が授業で有効に活用できるように研修を進める。また、情報モラルやプログラミング教育に関しても、関係諸機関との連携を図り、系統的に指導できる年間計画を作成する。
③特別支援教育の取組状況	3	③学級の中に支援を要する児童が多く、保護者や関係諸機関と相談しながら、共通理解の下、全教職員で指導にあたり、適切な支援や個別指導等で少しずつ成果が現れ始めている。	③管理職がリーダーシップを発揮するとともに、特別支援教育コーディネーターや各種関係機関等と連絡・調整を図りながら、支援を要する児童への理解や指導体制を研修・検討し、全教職員での指導を推進する。
④指定研究等の取組状況 国土交通省徳島河川事務所指定「防災学習モデル校」	3	①「防災学習モデル校」として、5年生で地域の実状にあった防災学習を行うことができ、土砂災害などの際に、どのように自分の命を守り、安全な行動ができるか、意欲的に学ぶことができた。	①南海トラフ大地震などの大規模災害が高い確率で想定される中、「防災学習」の重要性はさらに高まることから、総合学習や教科等の中に「防災」の視点を明確に位置づけ、取り組んでいく。